



まちづくりびと ニュース 第7号

平成 20 年 1 2 発行

＜目 次＞

- 地域の“まちづくりびと”養成講座 P 1
『まちづくりファシリテーターになろう！』
- “まちづくりびと”みなさんの近況 P 7

平成 20 年度地域の“まちづくりびと”養成講座 ステップアップ編

「まちづくりファシリテーターになろう！」を開催

平成 17 年度から実施してきた「地域の“まちづくりびと”養成講座」は、今年で 4 年目となりました。過去 3 回は、地域でのまちづくりをいろいろな視点で体験していただく講座を行ってきました。

平成 20 年度は、過去 3 年間に登録いただいた方々を始め、地域でまちづくり活動に取り組んでおられる方を対象として、地域でまちづくりに主体的に取り組める技術を身につけていただくため、ステップアップ編として「まちづくりファシリテーターになろう」を 8 月 23 日、9 月 7 日、9 月 27 日に分けて開催しましたのでその報告を行います。3 回を通して講師を務めていただいたのは、日本福祉大学准教授 吉村輝彦さん（第 1 回まちづくりびと養成講座修了生）と、岡崎まち育てセンター・りた事務局長代行 三矢勝司さんです。

■ 第 1 回：テーマ「まとめる」

日 時：8 月 23 日（土）13 時～17 時

場 所：名古屋都市センター14 階特別会議室

内 容

- ・まちづくりにおけるワークショップ（WS）の意義とファシリテーターの役割を学ぶ。
- ・KJ 法やファシリテーショングラフィック（FG）などワークショップに必要な手法を学ぶ。

1) アイスブレイク

受講生 27 名には、早く場に打ち解けていただくために「どこからきたの？」調査を兼ねて「アイスブレイク」を行い、楽しみながらグループ分けを行いました。

2)【講座】まちづくりファシリテーターとは（講師は吉村さん）

最近、WSという言葉も普及して、小グループで付箋紙を使って意見を出し合う光景を目にすることが多くなりました。ただ、意見を出し合うだけではなく、自分とは違う意見がいろいろ聞けたとか、自分の意見も言えたし新しい発見もあった、みんなの意見で何かを創造できたと思えるWSを企画して欲しいと、経験豊かな吉村さんのWSへの想いを述べられました。吉村さんの講演の横で、三矢さんがF Gを実演、講演の内容をわかりやすく、マーカー各色を使って見やすく模造紙にまとめていただきました。



3) 対話の時間

吉村さんの講座内容で、「感動したこと：赤の付箋紙」「ここが知りたい：青の付箋紙」「うちの地域でこんなことができるといいな：黄の付箋紙」に分けて、意見を出し合い、模造紙に共通項目をまとめながら貼り付けていきました。

4) 情報の共有

最後に 3 つのグループがそれぞれまとめたWSの結果を全体で発表、受講生皆さんが意見を共有する時間です。また、発表グループ以外の方は、2 人一組となり交代で白紙の模造紙に向かって、F Gの練習も行いました。

発表を聞きながらそれを同時進行で模造紙に見やすくまとめるというF G、おそらく皆さん初めての体験で、悪戦苦闘しながら発表者がしゃべる要点をまとめていました。



■ 第2回：テーマ「組み立てる」

日 時：9月6日（土）13 時～17 時

場 所：名古屋都市センター11 階大研修室

内 容

- ・まちづくりワークショップの組み立て方や注意事項を学ぶ。
- ・まちづくりワークショップを設計する。

1)【演習】まちづくりWSの設計理論（講師是三矢さん）

WSが有効と考えられるまちづくりは、市の総合計画づくりから多くの市民が活用する公園や公共施設づくりなど幅は広い。今日のプログラムの前半では、講師の三矢

さんが、実際にかかわった「地域交流センター整備計画」の検討に取り入れたWSを事例に、講義をいただきました。WSを運営していくファシリテーターがよく考えなければいけない計画の進行を司るプロセスデザインや各WSでの実施する内容を検討するプログラムデザインの重要性を、わかりやすく説明いただきました。

2)【演習】まちづくりWSの設計

講義のあとは、早速、実際に設計演習にチャレンジです。今回の課題は、「久屋北広場WS第1回目を設計しなさい」で、だれもが知っており、多様な要望が考えられる久屋北広場（桜通以北）を対象として、広場の利用について意見集約を図っていくためのプログラムをつくる演習です。プログラムを検討するに先立って、まず、その現場となる久屋北広場について写真や、ビデオ、資料等で事務局から説明しました。また、WSは、下記の原則を踏まえて30名程度の参加者を想定して行うイメージです。

- 1) 利用参加者の原則：その場所をすでに使っている人、今後使いそうな人の声
- 2) 課題当事者参加の原則：その場を改良した際、利益や不利益を受ける人の声
- 3) 権限者参加の原則：土地所有者、管理権限者等、実効性を担保する人の声

さて、4つのグループは与えられた条件で、いかに実りあるWSをデザインできるかにチャレンジです。日頃、設定されたWSに参加し意見を言うことに慣れている参加者も、WSそのものを企画し組み立てる作業には、はじめ少し戸惑いがありました。しかし、慣れてくるとアイスブレイクにはこんなことしたら面白くない？皆が意見を出しあったと実感できるWSにするためにどんな工夫が必要？など、演習時間の1時間半があっという間に過ぎ去りました。



3) 共有の時間

さて、成果の発表です。持ち時間は3分。今回、優秀賞に選ばれたプログラムは、次回、作成したグループの人がファシリテーター役を務め、他のグループの人達が参加者となって、そのWSを運営していただくという講師の発言に、皆さんの顔が一瞬緊張しました。発表者の責任も重大です。

各グループ、多彩なアイデアが盛り込まれた発表で、投票の結果、Dグループの提案が採択されました。

イエスノークイズのアイスブレイクでグループを分け、分かれたグループでいろいろな意見を出し合い、みんなの広場という大マップに書き込んでいき、未来に向かってどのような公園にしたいかを考えて



いこうという提案でした。

■第3回 テーマ「やってみる」

日時：9月27日（土）10時～17時

場所：名古屋都市センター14階特別会議室

■内容■

- * まちづくりににおける広報の役割とその方法について学ぶ。
- * 自分たちが設計した、まちづくりWSを実施し、WS運営上の工夫を確認する。

1) アイスブレイク

今日のアイスブレイクは、受講生の皆さんにチラシを持ってきていただき、チラシの品評会をしました。ホワイトボードにチラシを貼り、この中で見やすいもの、見にくいものを選んで、どうしてそう思うかを付箋紙に書いてもらい投票しました。多くのチラシを並べてみると「小さい文字や情報が多くて見にくい」ものもあり、「必要なことは書かれていて、文字ばかりでなくイラストなど入っている、すっきりして見やすい」というものが良いということがわかりました。

2) 【講座】広報の理論と実践（講師は三矢さん）

広報の基礎知識として「どのように広報計画を立てるか?」、「広告の手段と手法」、「広報計画のコツ」、「ちらしづくりの役割分担」などについて岡崎市を事例として三矢さんに講義していただきました。

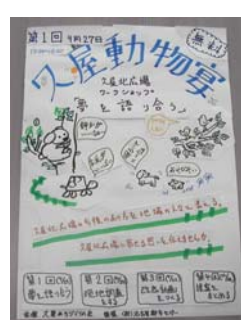
チラシなどを作るときも役割を分担して行うなどの話しをしていただきました。仲間の中でイラストが得意な人や、文章を書くのが得意な人など、その人その人の得意な分野を活かしながら作ると楽しくできるのではないかというお話でした。

3) 【実習】チラシを作ってみよう

第2回で設計した「久屋大通北広場 WS」を呼びかけるチラシの作成です。グループごとに各々役割（編集長、紙面デザイナー、イラストレーター、コピーライター、ライターなど）を分担し、編集長の号令の元、特色のあるチラシが作成されていきました。お昼休憩を挟み、午後一番で作成したチラシの発表を行いました。各グループのチラシの成果は・・・。



Aグループ



Bグループ（表、裏面）



Cグループ



Dグループ

4)【実習】まづくりWS

いよいよ、第2回目の設計演習で選ばれたDグループが設計したプログラムに沿って、WSの開始です。アイスブレイクのゲームが終了して、体と頭がリフレッシュしたところで、久屋北広場を利用するであろう人物を想定し、その役になりきってもらい、その人物なら広場をどうしたいか？などを広場の地図に貼りながらまとめていきました。

そして、発表用のシナリオに作り上げます。脚本シートという用紙を使って、シーンを4つ作り、各々の登場人物が久屋北広場をどのようにしたいかということを発表できる形にします。さて、どのようなシーンが飛び出すか？



5) 発表

ドアラグループ

タイトル *HISAYA 来た公園の一日*



登場人物：サラリーマン、カフェの店主、子ども、外国人朝、公園ではジョギングや、太極拳をしているグループがいます。

サラリーマンが花の咲き誇る公園の中を通勤していきます。昼、コミュニティガーデンでボランティアの人が手入れをしています。企業の協賛でその人たちにお礼としてカフェ券が配布され、公園近くのカフェでお茶を飲む事ができます。午後、近所の子どもが帰ってきて遊びます。ここには木で作られた遊具、ジャングルロープやターザンロープなどがあるので子どもも楽しく遊べます。屋根付のステージもあるのでいろいろなストリートパフォーマンスが行われています。そして夜、企業の協賛で公園に街灯がついて会社帰りのサラリーマンが帰宅前にカフェで一休みしています。おしゃれなベンチ（カッシーナのベンチ）もあるとさらにいいなと話しています。

さるるグループ

タイトル *人間循環* ホームレスから資産家まで



登場人物：行政マン、金はあるが口は出さない資産家、カップル、ホームレス、子ども、米屋

公園に住んでいるホームレスがカップルに煙たがられ、行政の人から追い出される所からはじまります。近所の米屋さんは最近の事件で米が売れなくなり、倒産してしまいました。こうなったら自分で米を作り、おにぎりを売ろうと計画しています。子どものつぶやき「公園にジャングルジムとかあるといいなあ…。けどお年寄りなんかには迷惑が掛かるから自分たちが遊べるところがあるとい

いなぁ…」と話しています。カップルのつぶやき「短い時間でも楽しめる場所があるといいなぁ」と思ったり、「花を売っているワゴンがあるといいなぁ」と話しています。近所の資産家は、「駐車場がないので公園の地下に駐車場をつくったり、寂しいので公園に万国旗を飾ったらどうだろう…」とつぶやいています。巡り巡ってまたホームレス、行政の人に公園の管理を依頼され居場所を確保できるようになります。

くまくまグループ

タイトル *メルローズの愛の泉*

登場人物：冬眠から覚めたくま（チーム名にちなんでくまが登場します）、サラリーマン、近所の住人、奥さん、行政の人



冬眠から覚めたくまが公園に現れ、サラリーマンやお店の人に出会ったりする中で、公園がこうなるといいなぁということを話していきます。公園には知られていないモニュメントや泉などもあるという話から、それを活かし（イタリアのテレビの泉のマネをしてコインを投げたら愛が実ったという話を聞いて、泉は「メルローズの愛の泉」としようという話もです）、近所に住む人や行政の人の意見も取り入れ市民参加で明るく楽しい公園にしていこうという内容になりました。

6) まちづくり WS の評価

WS 終了後、設計、実習を終え、感想が話されました。企画、設計をした D グループの人たちは、「受講生の皆さんに助けられた」、「総合司会者が目をつぶって自分のする役をイメージしてくださいというのが良かった」、「いろいろな参加者がいるという設定で意見を言うってもらうにはファシリテーターにも工夫が必要だと思った」、「FG は書くので精一杯だった」、「これから実際の実現に向けるのが大事」という感想がでました。参加した受講生からは「既に顔を知っているのと和気あいあいとできた」、「顔見知りになっていない場合はこのように盛り上げるのか不安」、「事前の準備が大変だったのでは?」、「参加者同士の助け合いが必要」、「総合ファシリテーターがよかった」などの感想がでました。講師からはここが良かったという点やここはこうしたらいいのでは?という点が話されました。

****今回のここはよかったというファシリテーション10テク****

- A：最初に、大変お待たせしましたという来場者への感謝、お礼
- B：スタッフ紹介（企画運営側が名乗ることによる安心感）
- C：今日の“あなた”による緊張感（最近のことを話題にふる・場を和らげる）
- D：地域を知る、学ぶ（クイズで愛知県や名古屋、広場への関心）
- E：「クイズ」という気付きの促し（説明から共感へ。主催者側も意識化できる）
- F：始まる前に「目をつぶる」（情報を断ち、心に耳を傾ける）
- G：「役割、立場」という視野の広げ方（自分で選んで考える）
- H：「4つのシーン」による発表（いくつかかにまとめる、編集の中で共有化する）
- I：脚本（シナリオ）によるイメージの共有化（物語による伝達）
- J：ファシリテーションとレクリエーション（豊かに発想する日常へ（アドリブ性））

7) 講師による全3回の振り返り

全3回が終わりました。第1回は「ファシリテーターとは？」ということディスカッションをしながら学んでいただきました。第2回はWSの設計の組み立ての基本などを学びました。第3回のこの場は、WSでの双方向のコミュニケーションで、お互いの力を引き出すということをし、その所に魅力や効果があるということ学んでいただきました。今回この講座の場で出会った皆さんがこれをきっかけに「またあったらよろしくね」という関係ができればよかったなと思います。



最後は修了証の授与をおこない、記念写真を撮り全3回の講座が終了しました。

まちづくりびと

みなさんの近況

木村 晃一さん（1期生）

皆様、お久しぶりです。

私は地域のまちづくりびと養成講座に受講生・スタッフ・実行委員会として3年間参加させていただきました。

講座を通じて多くの方と出会い、またその人たちと別の活動フィールドを得ることができる機会を与えてくれたことに感謝しております。

私はこれまで建築・不動産の設計を経て現在はランドスケープの分野にて活動しています。

主に公共空間(都市公園・広場等)の設計に関わっており

ますが、近年こういった空間整備は利用者の声を反映させるべく、ワークショップ運営が付帯する業務が多数有ります。

愛知県民を対象とした空間作りや自然を生かす地域整備などのワークショップを担当しておりますが、対象が“公園”でも“まち”でも自分たちが公共空間を良くしていきたいという想いは一緒なのでこれまでの経験が大変役に立っています。



三田 祐子さん（1期生）

こんにちは☆最近私が大好きな光景があります。近所の保育園で賑やかな遊び声の中、一人の女の子がハニカミながらも大きな声で『ま～ぜ～て～！』と他の遊びをしている友達に言ったら、その子たちは口々に『い～い～よ～！』『うんっ』とみんながその一言に答え、楽しそうに遊びの輪を広げていました。他の日は別の子が『ま～ぜ～て～』と言ったら、『いいよっ』の合唱♪ けんかを
する声も泣き声も聞こえますが、『〇〇ちゃん、ごめんね』という声とともにまた笑い声が響いています。
私も『ま～ぜ～て～』と言ったり、『〇〇しよ～』と声をかけたり、いろんなところで、まちづくりびとのみなさん同士で、声をかけ合って交流が広がっていくといいなあ。と思っています。



編集後記

平成20年度、“まちづくりびと”養成講座は、地域でWSなどを主催して取組める技術を身につけるための「ステップアップ編」と地域でのまちづくりを多くの人達と楽しく体験していただくための「入門編」を連続して行いました。そして、ステップアップ編の体験を活かして、5名の方に入門編のグループワークのコーディネーターとして活躍していただきました。

この一連の企画が12月6日に無事終了し、今年度のまちづくりびと養成講座が一段落したところです。

今回のまちづくりびとニュースでは、ステップアップ編の内容をご紹介しました。講座を受ける側から講座を企画したり、WSを主催する側にステップアップするためには、いろいろと学ぶべきことや多くの経験が必要ながわかります。実は都市センターの職員も、これまでまちづくりびと養成講座を開き、皆さんにまちづくりへの参加の実践を学んでいただくために試行錯誤を繰り返してきましたが、今回のステップアップ編を企画するに当たって、吉村さんや三矢さんの実践から多く学ぶところがあつたと感謝しています。

これからは、まちづくりびとが地域に羽ばたいて活躍していくことも念頭に入れながらいろいろなスキルを学ぶ講座と、一方ではまちづくりへの参加を楽しく行える入門編の講座を平行して進めて行ければと考えています。

（T. A）

■ニュースに載せてもよい記事などがありましたら、ドシドシお寄せください！

名古屋都市センター 調査課 まちづくり支援担当

<メンバー>宮島、三品、後藤、青山

〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目一番一号金山南ビル13階

TEL 052-678-2214 FAX 052-678-2211

E-mail shien@nui.or.jp